

## 『歴代寶案』校訂本第一冊の発刊に際して

沖縄県知事 大田 昌 秀

我が沖縄の歴史は、他県には例のない、独自の発展を遂げてきました。たとえば、中国との朝貢貿易を行った琉球国時代、徳川幕藩体制下で薩摩藩（島津家）の間接支配を受けながら中国との朝貢貿易を行った時代、日本近代国家の成立とともに沖縄県となった時代、沖縄戦で米軍に占領され米国統治下に置かれた時代がありました。そして一九七二年、日本国に返還され、今日に至っております。

琉球国中山王察度は、一三七二年、中国（明国洪武帝）の詔諭に応じて弟泰期を朝貢使節として派遣しました。それ以来、二年に一度の朝貢貿易をもとに、深く長い交流の時代が続きました。琉球国は、朝鮮国、シャム国（タイ）、パレンバン国（スマトラ）、安南国（ベトナム）、ジャワ国（インドネシア）等の国々とも交易し、東アジアの一大交易国家へと発展しました。

琉球国と中国との朝貢貿易は、一六〇九年、日本国（薩摩藩）の間接支配を受けた後も、一八七四年まで、続きました。この間の中国皇帝詔勅等の原文書や、中国ならびに諸国に送った控の文書は、首里城正殿焼失のたびに烏有に帰したようではありますが、天妃宮にはその写しが保存されてきました。ところが、その写しも破損散失のおそれがありましたので、一六九七年に、それらをまとめて編集し、二部つくりました。一部は王城に納め、一部は天妃宮に保管し、そして、以後の往復公文書も続集されました。王城に納められた『歴代寶案』は薩摩置県の際に明治政府へ引き継がれたようではありますが、所在不明となっています。天妃宮に保管した『歴代寶案』は、久米村の旧家に保管されていましたが、一九三三年に、県立図書館へ移管されました。しかし、これも、去る太平洋戦争最後の沖縄戦で失われました。

ところが、幸いなことに、いくつかの写本が残っております。沖縄県は、一九八九年度から、これらの現存する写本をもとに『歴代寶案』の再編集事業を開始しました。この編集事業は、現存する諸本を校合・校訂して、原本（漢文）に近い校訂本を編集し、この難解な漢文史料校訂本をもとに、さらに県民が読める訳注本（和文）を編集することにしております。この『歴代寶案』は、一四二四年から一八六七年までの、四四四年間にわたる琉球国と中国との往復公文書を主体に編集した外交文書集であります。

今年度は、まず校訂本二冊を刊行し、ひきつづき、全五十冊を平成二二(二〇〇八)年度までに完成する計画であります。『歴代寶案』は、われわれの先人が残した偉大な遺産であり、未来の沖縄へ残す、大きな遺産となることを確信いたします。

末筆ながら、この大事業のために、御尽力、御協力を賜っている、沖縄県歴代寶案編集委員会委員ならびに校訂者・訳注者各位に、感謝の意をささげるとともに、全県民のみなさまが、この歴代寶案編集事業に、深い関心を寄せられ、御協力くださるよう希望して、御挨拶いたします。

平成四(一九九二)年一月

## 『歴代寶案』校訂本第一冊の発刊に際して

沖縄県教育委員会教育長 津 留 健 一一

沖縄と中国には、長い友好の歴史があります。一三七二年に、明国の初代の皇帝太祖の招きに応じて、琉球国中山王察度が進貢使節を送っております。

一五世紀から一六世紀にかけて、琉球国は、中国だけでなく、朝鮮国・東南アジア諸国との交易も行い、大琉球国時代といわれるように発展しました。島津侵入後は、諸国との交易は衰微し、専ら、中国への進貢だけとなりました。日本国内市場のニーズに応えながら、中国の文物をもたらし、漆芸・陶芸・染織・学問などを学び、独自の沖縄文化を開花させました。

人材育成については、すでに一三九二年に官生（官費留学生）を中国へ派遣しております。当初、王の近親者や按司の子弟を留学させましたが、尚真王代から、久米村の子弟を留学させ、公文書の作成や通訳に備え、経済の発展だけでなく、人材育成にも意を用いました。南京（のちに北京）の国子監における官生は、中国当局から宿舍を与えられ、衣類や食料は、余裕のある現物給与で、他に学用品用として銀も給与され、好遇されました。官生の年限は、三年から七年といわれております。修業年限を終え、帰国した官生は、後代に国王の侍講や、琉球国の最高学府であった国学の講師を務め、後進を指導しました。

琉球国は、五世紀にわたり、技術的にも学問的にも先進国であった中国から、はかり知れない恩恵を蒙りました。明治初年以降、中国との公的な交流は、不幸な日中戦争をはさみ、中断していましたが、今年六月には、中国の学者をお招きして、那覇市で第一回歴代寶案研究発表会を開催する運びとなりました。これは、歴史的な出来事であり、まことに意義深いことでもあります。中国当局の御協力に対し、厚く感謝を申し上げます。

沖縄県教育委員会は、平成元（一九八九）年度以来、歴代寶案を編集すべく、歴代寶案編集委員会を設置し、鋭意努力をつづけてまいりました。このたび、関係者各位の労苦がみのり、今年度は、校訂本第一冊・第二冊を発刊する運びとなりました。ここに関係者各位に対し、

心から敬意と感謝を捧げるとともに、全五十巻という歴大な編纂事業を、関係者各位の御協力により、予定通り編集してまいりたいと考えております。

県民のみなさま方におかれましても、歴代宝案編纂事業に、なお一層の御理解を寄せられ、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます、発刊の御挨拶いたします。

平成四（一九九二）年一月